



いつも、お世話いただいている親戚のAさんの上顎の左側第2大臼歯が歯周病で保存不可能となった。残念ながら抜歯となり、同部が欠損、奥歯がない状態となってしまったのである。通常欠損部を補う処置を歯科では、補綴処置というが、その補綴の治療方法は、



1、可徹性の義歯（取り外し可能な入れ歯）

2、固定式のブリッジ

3、何もしない

4、インプラント 一般的には、この4つが選択肢となる。

私の考えとして、もし自分が治療されるのであれば、間違いなく4、のインプラントと答える。1の入れ歯はもう古典的治療。これで物を噛めというのは気の毒に思う。しかし、治療費用を考えれば、もっとも安価となり、ふところはいたまない。しかし、体は痛む、実はこれが問題。予後は支えのバネが負担となり支えの歯までだめにしてしまう。結果次々に歯を喪失してしまう。それだけでは済まない。

顎のずれの発生は、頸椎や脊柱を曲げてしまうのである。

2の固定式ブリッジは支えの歯を削ってしまう。虫歯でなくても歯を削ってしまう事は抵抗がある。たとえば、3本の歯の負担を2本で支える自然ではあり得ない状況をつくり、支えの歯は負担過重となる。プラーク（汚れ）もつきやすく予後は良くない。これも、準古典的治療といえる。顎のずれの程度は入れ歯よりは軽度である。残るは、何もしないかインプラントであるが、口腔とはすごく順応性がたかい器官である。抜歯したときは違和感、喪失感があり、とてもショックなのだが時間がたつと、無くて何ともないといった状況となる。口という器官が生物の最古の器官たる所以がここにある。これが問題なのである。

実は、たった1本の歯を失いそのままにしていた事が全身に影響していたのである。

親戚のAさんと最近お酒を飲み、知ったことなので、

今まで、足が曲げられない状態だったとの事。ところが、今年その欠損部にインプラントを入れ、仮歯を入れてから不思議な事が起きたというのです。

今まで痛くて曲げれなかった足が自然に曲げられるというのである。

噛み合わせって不思議なものである。でも、私から言わせれば、

何の不思議でもなく当たり前なのだが、あの時、抜歯した後、

インプラントを入れましょうとお話ししたのですが、『まずいいよ。』という返事。

あまり無理強いするのも良くないと考えた事なのです。**歯は臓器と同じくらい大切**と

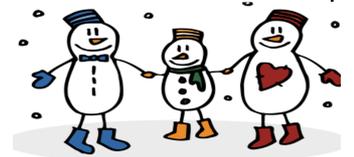
今、私は考えています。

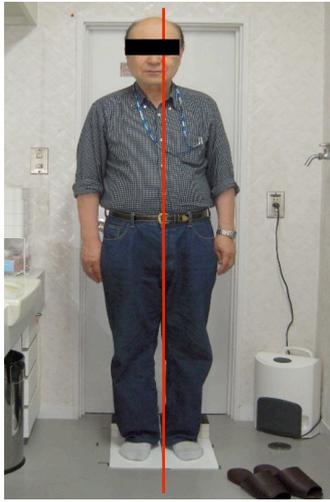
限られた人生、命、だからこそQOL（人生、生活、の質）を高めてあげたい。

インプラントってすごい。

その理由を御見せしましょう。

→ 次へ





抜歯した後の姿勢



インプラントを入れて、咬み合わせを安定させた後の姿勢



研究用ビーグル犬の場合



右の歯列を削った研究用ビーグル犬



眼の異常や、脱毛など。自律神経の異常症状が見られました。



成犬に見られた後ろ足の異常。これ以外に自律神経失調による脱毛などさまざまな症状が見られた。元のかみ合わせに戻すと、足は正常になりました。



乳歯列を削って3ヶ月後から現れた前足の異常。筋肉の緊張が部分的に異常になっている。運動神経の異常が考えられます。

噛み合わせの善し悪しは、姿勢の善し悪しでわかります。

さかした歯科が提案する
体のためになる治療です。



<http://www.41888.jp/>
ブログも随時更新中